

中央銀行

2022年の中央銀行の金需要は過去最高を記録しました。

- 2022年の中央銀行の需要は合計1,136トンで、過去最高を記録しました。
- 金保有の主な理由として、地政学的な不確実性と高インフレ率が注目を集めました。
- トルコや中国など、主に新興国の中央銀行で金購入が発生しました。

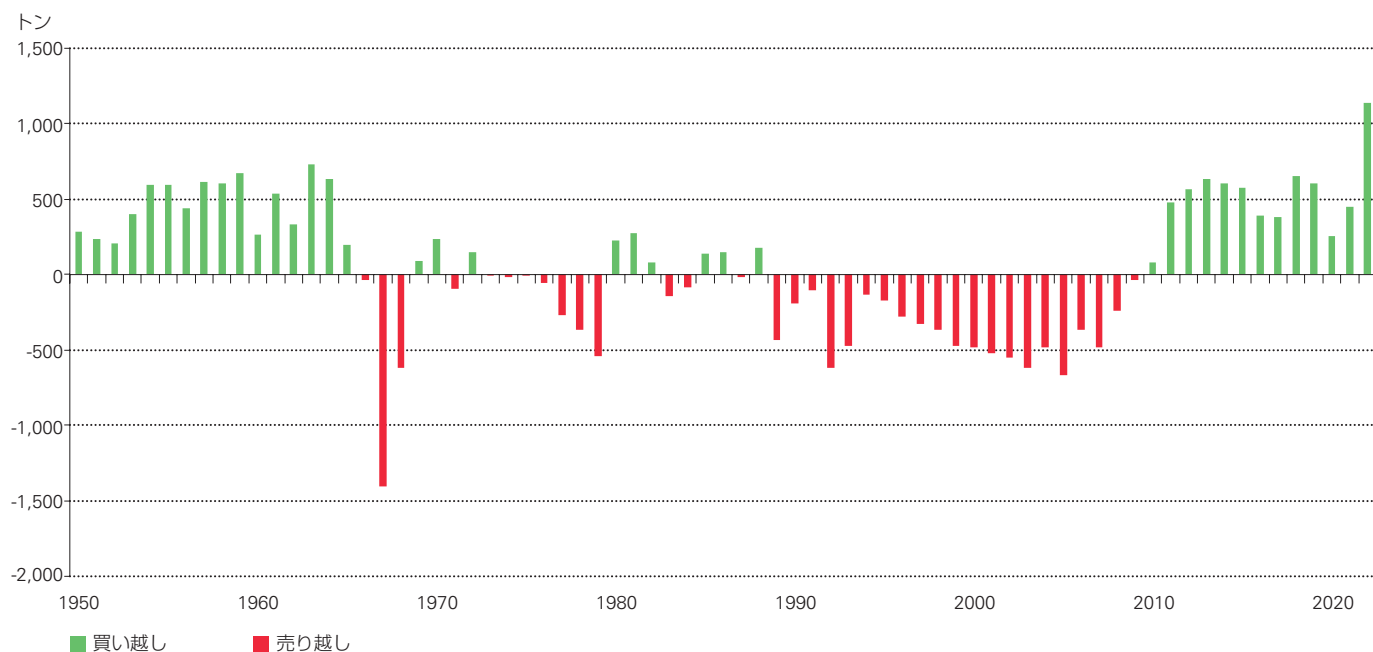
トン	2021	2022	前年同期比
中央銀行およびその他機関	450.1	1,135.7	↑ 152%

出所：メタルズ・フォーカス、ワールド ゴールド カウンシル

中央銀行の需要は、2年前に過去10年の最低値を記録した後、力強く回復しています。2022年の同セクターの買い越しは合計1,136トンで、2年連続で前年を上回りました。2022年は中央銀行の金購入の当たり年となりました。13年連続の買い越しとなっただけでなく、第3四半期と第4四半期の需要がともに400トンを上回ったため、年間需要は1950年までさかのぼるデータの中で2番目の記録となりました。

中央銀行の第4四半期の買い越しは合計417トンとなり、下半期の購入量は合計862トンに達しました。第3四半期と同じく、第4四半期のデータも、報告済みの購入量と、かなりの規模の未報告購入量の推計値を足し合わせたものです。⁹ 未報告の活動に関する情報が入手できるようになった場合、これらの推計値が修正される可能性があります。

2022年の中央銀行の金購入は過去2番目の規模に*



*データは2022年12月31日現在。

出所：メタルズ・フォーカス、リフィニティブGFMS、ワールド ゴールド カウンシル

9 すべての国レベルの総売却額および購入額は、本稿執筆時点で入手できる最新の国際金融統計（IMF IFS）やそれぞれの中央銀行のデータに基づく。メタルズ・フォーカスは追加的な情報源から推定値を入手しているため、これらの数値は本レポートに掲載されている中央銀行の正味需要とは一致しない可能性がある。

中央銀行の金購入は、2010年に年間ベースの買い越しに転じて以来「流行」しています。ワールド ゴールド カウンシルが公開する中央銀行の金準備の年次調査の最新版は、中央銀行に金保有を決定させる主な2つの要因を強調します。それは危機時の金のパフォーマンスと、長期的な価値の保全手段としての役割です。地政学的な不確実性と激しいインフレに見舞われた1年に、中央銀行が速いペースで金準備を追加し続けることを選んだのは不思議ではありません。

そして2010年からの傾向がさらに続く形で、2022年も新興国の中央銀行による金購入が、報告済みの需要の大部分を占めました。¹⁰

中国は2022年に金購入を再開しました。年末にかけて、中国人民銀行が2019年9月以来となる金準備の追加を報告するという、この1年で最も重要な発表がありました。11月と12月の発表によると、同銀行は合計62トンの金を購入し、金準備が初めて2,000トンを超えました。中国は2002～2019年に1,448トンの金を蓄積しており、歴史的に金を大量に購入する国というポジションだったことを考えると、これらの発表には大きな意味があります。しかし報告によると、2022年に最も金を購入したのはトルコ中央銀行です。トルコの公的年金準備は148トン増加し、過去最高の542トンに膨らみました。¹¹

地域別に見ると、2022年は中東の中央銀行の金購入が活発でした。エジプト(47トン)、カタール(35トン)、イラク(34トン)、アラブ首長国連邦(25トン)、オマーン(2トン)が金準備を大幅に増やしました。中央アジアでも健全な水準の購入が見られました。ウズベキスタン中央銀行は、年初は売り越しでしたが年間では買い越しに転じ、金準備が34トン増加しました。キルギス共和国(6トン)、タジキスタン(4トン)の購入も目立ちました。

インド準備銀行は2022年も引き続き金を購入し、33トンを追加しましたが、2021年の購入量の77トンからは57%減少しました。この年、インド・ルピーを支えるために為替市場に介入した結果、外貨準備が700億米ドル減少したことが、同銀行の金購入に影響を与えた可能性があります。現在の同銀行の金準備は787トン(準備資産全体の8%)です。

それ以外に特筆すべき購入国は、エクアドル(3トン)、チェコ共和国(1トン)、セルビア(1トン)です。アイルランドは第1四半期に3トンの金を購入し、先進国の中央銀行の中で唯一、年間で金準備を増やしました。

しかし大量の金が購入される一方で、2022年には多少の売却も発生しました。売却量が最も大きかったのはカザフスタン国立銀行で、金保有量が51トン減って352トン(準備資産全体の58%)となりました。カザフスタン国立銀行はブルームバーグで声明を発表し、2023年のさらなる売却計画を明らかにしました。ただし同銀行は以前、金の売却は市場の状況に左右される可能性があるとも表明しています。ワールド ゴールド カウンシルが過去のレポートで指摘したように、国内で生産された金を定期的に購入する中央銀行が、購入と売却の間で揺れ動くことは珍しくありません。

ドイツは実施中のコイン製造計画の一環として4トンの売り越しを記録しました。また、スリランカ(3トン)、ポーランド(2トン)、フィリピン(2トン)、モンゴル(2トン)、ボスニア・ヘルツェゴビナ(1トン)、カンボジア(1トン)、ブータン(1トン)が1トン以上の売却を行いました。

ロシア中央銀行(CBR)は、国際的制裁措置を課せられたことを受けて、国内生産者からの金購入を再開することを発表しました。しかし1月に金準備が3トン減少したのが最後で、それ以降のデータは報告されていません。ワールド ゴールド カウンシルでは引き続き展開を監視していきます。

今後の見通しとしては、中央銀行が金に対するポジティブな姿勢を維持し、2023年も買い越しが続くことを疑う理由はほとんどありません。しかし2022年初めのワールド ゴールド カウンシルの予測でも明らかなように、どの程度の規模になるかを見極めることは困難です。とはいえ、2023年の中央銀行の需要が2022年の水準に達することは難しいという見方もできるでしょう。詳しくは[今後の見通しのセクション](#)をご覧ください。

¹⁰ 前掲。

¹¹ トルコの公的部門の金準備は、中央銀行が保有する金と財務省が保有する金の合計である。これは金準備の合計から、中央銀行が商業セクターの金政策、たとえばリザーブオプションメカニズム(ROM)、担保、預金、スワップ等に関連して保有する金を差し引いたものに相当する。この方法論に関する情報は、次のリンク先をご参照ください。www.gold.org/download/file/16208/Central-bank-stats-methodology-technical-adjustments.pdf